令和６年度第２回船橋市文化振興推進協議会会議録

（令和７年３月１１日作成）

１　開催日時

令和７年３月４日（火曜日）午後２時００分～午後４時００分

２　開催場所

船橋市役所　７階　教育委員室

３　出席者

⑴　委員　　太下会長、松本副会長、小原委員、倉本委員、澤田委員、菅根委員、高屋委員、日野原委員、村田委員

⑵　事務局　阿部文化課長、藤巻文化課長補佐、和田文化振興係長、益子主任学芸員、碓氷主任主事、金子郷土資料館長、金児市民文化ホール館長

４　欠席者

小野木委員

５　議題及び公開・非公開の別並びに非公開の場合にあっては、その理由

⑴　第２次船橋市文化振興基本方針に基づく事業評価について【公開】

⑵　その他【公開】

６　傍聴者数

１人

７　決定事項等

⑴　第２次船橋市文化振興基本方針に基づく事業評価について

・協議会にて選定した５事業について、事業説明を実施し、各委員からの評価を伺った。

⑵　その他

・実施事業について報告した。

・今後のスケジュール及び議題について説明した。

８　問い合わせ先

教育委員会生涯学習部文化課

０４７－４３６－２８９４

９　議事

○事務局（文化課長補佐）

本日はお集まりいただきありがとうございます。

会議に先立ちお手元の資料を確認させていただきます。

船橋市文化振興推進協議会委員名簿、令和６年度第２回船橋市文化振興推進協議会席次表、令和６年度第２回船橋市文化振興推進協議会次第、資料１－１　第２次船橋市文化振興基本方針に係る事業評価方法の見直しについて、資料１－２　第２次船橋市文化振興基本方針の施策体系、進捗管理シート、個別事業評価シート令和５年度市所蔵作品展「フナバシストーリー　北井一夫」、令和５年度船橋市所蔵作品展「フナバシストーリー 北井一夫」実施報告、個別事業評価シート　第１０回ふなばしミュージックストリート、第１０回ふなばしミュージックストリート実施報告書、個別事業評価シート第３１回音楽のまち・ふなばし　千人の音楽祭、「第３１　回音楽のまち・ふなばし 千人の音楽祭」実施報告、個別事業評価シート令和５年度郷土資料館主催事業「展示事業・教育普及事業」、個別事業評価シート令和５年度出張美術展「どこかで見た不思議な風景」、令和５年度出張美術展実施報告、令和６年度 アレも、コレも、船橋市所蔵作品展 －ふなばしアートカードになりました－実施報告。

皆様、不足資料はございませんでしょうか。

ここで、事務局から委員の皆様に２点、お願いがございます。本会議は公開会議であるため、後日議事録を公開いたします。ＡＩ音声認識システムを用いて、本会議の進行と同時に、皆様のご発言を文字に起こしてまいります。

そこで、１点目、皆様のお近くにマイクをご用意いたしました。ご発言の際は、マイクの電源を上に上げて、オンにしてからご発言いただき、ご発言が終わりましたら電源を下に下げて、オフにしていただきますようお願いいたします。ご不便をおかけしてしまい誠に申し訳ございませんが、マイクの本数に限りがございますので、お近くの委員の方と共用でお使いいただければと思います。

２点目、ご発言の際は、まずお名前をお申し出ください。

お手数おかけして誠に恐縮でございますが、ご協力いただければ幸いでございます。

それでは、これより令和６年度第２回船橋市文化振興推進協議会を開催させていただきます。「船橋市情報公開条例」第２６条及び「船橋市文化振興推進協議会設置要綱」第８条により、本日の会議につきましては公開といたします。

本日午後２時００分の締め切りとしてご案内したところ、傍聴希望の方は、１名、いらっしゃいます。お入り下さい。

これより会議次第に沿って進めさせていただきたいと思います。

それでは、要綱第６条の規定により議事の進行は、会長の太下様にお願いいたします。

○太下会長

今、ご紹介がありました、太下です。改めまして、よろしくお願いします。

それでは次第に沿って議事を進めていきたいと思います。資料は、先ほど事務局か

ら説明したとおりとなりますが、今一度ご確認いただければと思います。
　では、まず議題１、第２次船橋市文化振興基本方針に基づく事業評価について、事業評価の実施説明を事務局からお願いします。
〇事務局（文化課文化振興係員）
　第１回協議会にて、事業評価の見直しについて委員の皆様にご提案し、この第２回協議会で、見直し後初めての事業評価の実施となります。
　事業評価の実施の前に、改めて、見直し後の評価方法について確認させていただきます。お手元の資料１－１第２次船橋市文化振興基本方針に係る事業評価方法の見直しについて、をご覧ください。この資料は、第１回協議会でもお配りした資料です。１ページ目の一番下から見直し後の評価方法について記載しています。
　まず、進捗管理評価についてです。２次方針に掲載の全事業について、事業所管課が実績報告を行います。事業所管課の実績報告を取りまとめたものが、A3 でご用意した進捗管理シートです。こちらは、委員の皆様による評価は行いませんが、何かお気づきの点があれば、ご意見いただければと思います。
　続きまして、資料１－１の２ページ目をご覧ください。本協議会のメインである個別事業評価について確認します。
　４つの基本目標と重点プログラムから１事業ずつ、計５事業を毎年度選抜し、重点評価します。まず、個別事業評価シートを用いて、事業所管課が一次評価を行い、その一次評価を踏まえたうえで、委員の皆様に二次評価を行っていただきます。
　二次評価にあたり、協議会の場で、画像や動画を用いて事業説明を行います。委員の皆様には、それらをご覧いただき、評価を口頭でコメントいただければと思います。
　事業評価実施後、皆様のコメントを取りまとめたものを、協議会からの評価として良いか、委員の皆様にご確認いただきます。その後、事業所管課にフィードバックします。
　事業評価の実施説明については以上です。
〇太下会長
　ご説明ありがとうございました。事業評価の実施説明について、ご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。
　よろしいでしょうか？委員としての負担はかなり軽くなって、メリハリのある評価方法になると思います。
　それでは、事業評価に移ります。令和５年度市所蔵作品展「フナバシストーリー　北井一夫」、について、事務局から事業説明をお願いします。
〇事務局（文化課主任学芸員）
　「フナバシストーリー　北井一夫」の展覧会を企画した担当学芸員の益子と申します。よろしくお願いします。それでは、令和５年度船橋市所蔵作品展「フナバシストーリー 北井一夫」の事業説明を始めます。資料は、個別事業評価シートの他に、「令和５年度船橋市所蔵作品展「フナバシストーリー 北井一夫」実施報告」をお配りしています。また、モニターで画像を表示していきますので、ご覧ください。今写っているのは、「フナバシストーリー 北井一夫」のポスターの画像です。昨年の

協議会で図録をお配りさせていただきました。その展覧会がどのようなものだったか、ご報告させていただきたいと思います。令和５年１２月６日（水）～２４日（日）の１９日間、市民ギャラリー全館を使って開催しました。展示品は写真家・北井一夫の作品、１７７点です。来場者数は２，６０２人で、１日平均１３７人の方にご来場いただきました。最終日の３日前にＮＨＫで取り上げられた効果もあり、多くの方にご来場いただきました。「フナバシストーリー」は、船橋市が人々の暮らしや町の様子を写してほしいと北井氏に依頼し、１９８３年から１９８７年の４年間に撮影されたシリーズ写真で、１６４点を市が所蔵しています。市役所１階で３度、その後も市役所や西図書館で展示されましたが、１００点以上の作品を一度に並べるのは今回の展覧会が初めてです。

それでは展覧会の様子をモニターでご説明していきます。こちらが入口の写真、続いて展覧会内部の写真です。北井氏のインタビュー映像を流している場所も作りました。令和２年度に収蔵作家のインタビュー動画を制作しまして、その動画を流しました。こちらの動画は、「船橋市バーチャル美術館」という船橋市の美術専用ホームページがあるのですが、そこでも公開しています。

また、学校と連携して「市内小中学生による『私の船橋ストーリー』展」を同じ空間で行いました。「私の船橋ストーリー」とは、北井氏が撮影した「フナバシストーリー」をデジタルアーカイブで鑑賞し、パソコンやタブレット端末を使って写真撮影や編集を行い、文字と写真で組み写真を作り、１枚の作品をつくりあげる授業プログラムです。船橋の中学校美術教員が発案した授業プログラムで、この展覧会では市内中学校３校、小学校１校が参加しました。こちらの写真は、授業で制作した作品を、授業の特長を解説するパネルや、児童生徒の感想カードと共に展示した様子です。この取組は、タブレットやパソコン等の ICT を活用して市所蔵作品を鑑賞し、制作までを実施する、という美術授業プログラムを市民の方々に知ってもらう場となりました。また、児童生徒にとって、自身が制作した作品を写真家の作品と同じ空間で展示する貴重な機会となりました。

来館者からは、「作品から船橋のまちの変化を感じられた」「船橋にある壊してはいけない、風景、人、生き物、物がいっぱいあるものに気付かされた」などの感想があがり、児童生徒の作品を通じて普段とは違う目線で船橋を見たり、考えたりできる展覧会となりました。

こちらは、会期中に開催したアーティストトークの写真です。５３名の方にご参加いただきました。会期中には、学芸員によるギャラリートークも開催しました。学芸員が写真について解説しながら展覧会を回っていくイベントです。

また、市民の方が参加し、写真を見ながら当時のことをお話できるような機会を作りたいと、急遽「座談会」を企画しました。

７３名の方にご参加いただき、撮影時のエピソードなどを話していただきました。先程お見せした、ポスター等のキービジュアルに写っている女性もご参加いただき、急に自分の姿が街に溢れていてびっくりした、などのお話も伺え、とても面白い機会になったと思います。

また、展覧会では、児童たちがコミュニケーションを取りながら作品を見る「対話型鑑賞」を学校連携事業として実施しています。公益財団法人公園協会が小学校５年生に対して「ふなばしアートカード」というオリジナル美術教材を用いて出前

授業「対話型鑑賞教室」を実施し、その授業を受けた児童たちが展覧会の見学に来ます。
　展覧会の写真は以上です。令和５年度市所蔵作品展「フナバシストーリー 北井一夫」の個別事業評価シート、裏面をご覧ください。
　まず、定性評価ですが、令和５年度は「フナバシストーリー」を題材としたこともあり、写真や座談会を通して、当時の船橋を懐かしむ方や、当時を知らない現代の子供も日常を思い出すなど、「ふるさと船橋」への愛着と親しみを共有する場となりました。また、展覧会場に設置されたアンケートが７９枚も回収されることは非常に珍しく、「大変よかった」が８０％、「良かった」が１７．３％、その他は未回答と、多くの人が展覧会を楽しんでくれたことがわかりました。よって、一次評価を５としています。
　続いて、定量評価は、過去最多の入場者数となったため、一次評価を５としています。
　この事業の課題ですが、令和５年度所蔵作品展は一定の成果を挙げることができましたが、「所蔵作品展」は市民ギャラリーの指定管理者である公園協会の提案事業であるため、作品の所管や展覧会を企画する学芸員の所属が文化課であっても、指定管理者の方針や都合により運営が左右されてしまいます。また、市民ギャラリーは貸しスペースであるため、展覧会を開催することで、市民の方の利用する機会が減って良いのか、という疑問があり、市民の展示利用が優先され、長期の開催が難しいです。委員の皆様に求めたい助言としては、多くの美術館のように２～３か月あれば、さらに多くの市民が鑑賞することができるかと思いますが、美術館のない船橋市で、安定的な運営・長期的な展示をするための解決法などのご提案をお願いしたいと思います。
　令和５年度市所蔵作品展「フナバシストーリー 北井一夫」、の事業説明は以上です。
〇太下会長
　ご説明ありがとうございました。大変素晴らしい企画だなと思います。年末だったので、残念ながら私は見られなかったのですが、とっても素敵な企画だなと思います。市がプロの写真家の方に依頼をして市内風景を撮っているのは、なかなか珍しいことだと思います。貴重な資料でもありますので、ぜひデジタルアーカイブ化していただきたいなと思います。船橋市さんは結構デジタルアーカイブ化を積極的に取り組んでらっしゃいますし、写真素材だとデジタルアーカイブ化も非常に馴染みますので。そうすると仮に展示期間が限定されるとしても、市民だけじゃなくて多くの方がすぐにアクセスできるという環境は確保できると思います。
　何かこれについてご質問ご意見ございますでしょうか。
〇菅根委員
　大変素晴らしいものだと思います。年齢が小学生のことは分かるのですが、年齢層と言いますか、どの年齢の方がいらっしゃっている感じでしょうか？
〇事務局（文化課主任学芸員）
　データが手元にないので後ほどご連絡差し上げます。私が見た感じだと、少し高齢の方が多いという印象です。８０年代の船橋を懐かしいと思うような世代の方達がたくさん来ていたように感じられました。

○菅根委員
　やっぱり美術館が必要じゃないですか？一度盛り上がって盛り下がったのですが。美術館があればもっとたくさんの作品を長い期間展示できたし、このような色々なものお持ちなのですから、どうぞまた復活してもらいたいと思います。よろしくお願いします。
○太下会長
　ぜひ、委員から強い要望があったと書いておいてください。
　他に、何かご意見ご質問ございますか？
○倉本委員
　お疲れ様でした。私も拝見させていただいて、とても素晴らしい展覧会だったと思います。とてもしっかり構成がされていて、一つの考え方を提示しているなと見させていただきました。
　で、ここで気になる点は指定管理者である船橋市公園協会、協会は公園緑地課の所管で文化課との関わりが良くわかりません。協会内でこの文化施設をどう運営していくか、その点内部できちんと話し合いができているのか？方向性がコミットされているのか？等々を議論しているのかと。その機会を作ってきちんと今後を話していかないと、いつまでも中途半端な市民ギャラリーになってしまうように思います。美術館構想がなくなったということは確かなことではありますが、市民ギャラリーもありますし、子ども美術館の中に美術館もありますので、この機会に船橋市の美術系文化施設をどのように運営していくのかきちっと公園緑地課さんと文化課さんとで話し合われることが一番かな、と思いました。
○太下会長
　ご意見ありがとうございました。
　ちょっと確認ですけど、確か、経緯としては、もともと文化関係の財団があったのが、いわゆる行政改革の一環で、この公園協会という財団と合併したんでしたよね。それで、指定管理もそちらに移ったと。だけど、依然として文化関係の施設の指定管理も、公園協会という名前の財団がやってらっしゃる言うことですよね。
　だとすると、所管がその公園緑地課さんと文化課さんの両課で共管にした方がいいんじゃないですかね。
○事務局（文化課長）
　文化課長です。もともと市民ギャラリーについては公益財団法人文化・スポーツ公社という財団が指定管理者で、そこが船橋アリーナという体育館の指定管理者でもあったのですけど、船橋アリーナの指定管理者から外れた後、安定的な運営するために公園協会と合併した、という形です。今、公園協会は文化の振興についても定款に記していまして、公園の管理もするし、文化の振興も行うという財団になっています。市の組織上の規則の中でも、公園緑地課と文化課、双方の事務分掌に、それぞれ公園協会に関することは所管することになっていますので、公園緑地課とも連携しながら、そして、今月末に指定管理者とも意見交換の場を設けていますので、運営についても、今日いただいたご意見も踏まえながら、しっかりと話し合いながらやっていきたいと思います。
○太下会長
　よろしくお願いします。他にご意見のある方はいらっしゃいますか。
○日野原委員

日野原です。いつもありがとうございます。
この「私の船橋ストーリー」というのは、北井さんの作品発表を基にしながら、子供たちの、自分にとっての船橋ストーリーをそれぞれ描きながら表現できたってことに繋がったってことがとても大きい事業だったなって思っています。それで、「アートでつながるまち ふなばし」という文言で、とても大きいスローガンが、生まれてきていて、これはそれを実現する一つの姿になっているなと感じて、感動した事業だと思っています。子供の中にも広がっていった、それでそれを展示してもらうことによって、それを見ている一般市民の方も一緒になって広がっていくというか、そういう意味で一つの文化が世代を超えて、また時代も超えて、とても広がった企画になっていたなと思っています。そして、同時に対話型鑑賞というのを市民ギャラリーの方で、出前授業で学校にも入っている。それとも繋がっているところかあって、とても魅力のある展開ができたなと思っています。
で、今日の事業評価の中にも対話型鑑賞の授業については評価がされていないのですが、その辺も含めて船橋の文化を醸成していくうえで、とても対話型鑑賞というのは、柱になっているところもあるので、それは船橋の文化として評価をししていくことと、それと色々な事業を繋がっていくということがとても大きいことじゃないかなと、考えていますので、先ほどから出ています、文化課と公園緑地課、の住み分けじゃなくて、一緒になってどのように展開していったら良いかということがすごく課題かなと思っています。よろしくお願いします。
〇太下会長
ありがとうございました。他に何かご質問、ご意見ございますか。
〇菅根委員
菅根です。日本の博物館美術館の一番いけないところが、インプットのみなんですよね。こういったアウトプットの機会を設けることは、大変重要なことで、海外では多く取り入れられています。ですから、子供に限りはせず、こうした事業としてやるのではなく、常設的にアウトプットの場をどこかに設けるということを事業の中ででも続けていっていただければと。そうすると全国の美術館博物館の中でも先進的な事業じゃないかと期待しております。以上です。
〇太下会長
ありがとうございます。アウトプットの一つの例として、この写真を一つの素材とした回想法はすごく有効だと思います。ちょうどこれ４０年前ですから、当時３５の方でも、もう後期高齢者ですからね。働き盛りの方も後期高齢者なので、これを見ていただくと、昔のことも思い出してすごく元気になると思います。そうなると、高齢福祉関係の課と一緒にやらないといけなくて、またお仕事大変かと思いますけど、ぜひそういう社会にどんどん広げていく活動をやっていただけるとより認識も広まっていくかな、と思います。
他に何かご意見、ご質問はございますか。
〇澤田委員
澤田です。皆様のご意見の通り本当に素晴らしい企画で、本当に驚きました。前職で、カメラを作っている会社に勤めていましたので、東京都写真美術館と縁があって今でも時々見に行っておりますが、勝るとも劣らない、船橋らしい展示企画だと思います。地域の学校にも目配せしていますし、皆さんの問題意識があったからこそ、いろいろなイベントが生まれたのだと思います。
あとは、参加者の人数も多い方だと思います。これも本当に素晴らしいなと思い

ます。先ほどからお話になっている日本全国への地域の方達にとってもよい手段だと思うので、そういう方達にもこのようなやり方を横展開していただくためのよい事例になると思います。
それから、美術館を作るとしてもそれまで時間がかかりますので、今の有効なコミュニケーションの中でぜひこの素晴らしい取り組みを続けていただきたいと思いました。とても感動しました。ありがとうございました。
○太下会長
ありがとうございました。他に何かご意見ご質問ございますか。
○小原委員
小原でございます。質問ですけれども、先ほどＮＨＫで放映されたというお話でございましたが、これはどのようなきっかけで放映に至ったのか、取材が来たのか、こちらからＰＲをしたのか。また、どういった形で放映されたのか、もし分かれば教えていただきたい。
○事務局（文化課主任学芸員）
市からＮＨＫに声をかけて、取材していただきました。たしか、夕方の首都圏ネットワークで放映されて、北井一夫さんがお話したり、子ども達の発言もあったりしたと思います。
○小原委員
その反響っていうものは大きかったと思うのですが、そういう発信をするって大事なことでもあるのと、そういう形になると市内より市外の方も来られたのではないのかなと思います。その辺のデータがもしあれば見せていただきたいのですが。私、経済人という立場から色々な意味で、船橋の街に色々な形で人が集まってもらう機会としてからもですね。今後こうした企画をしていただければと思いますので、よろしくお願い致します。
○太下会長
ありがとうございました。他に何かご意見ご質問ございますか。
○村田委員
自治連の村田です。よろしくお願いいたします。本当にこういった文化の問題というのは、私たちも地域のところにいますのでね、子供達に対して、これから未来に対して、文化っていうものは本当に大事なことだと思っています。でも、これまでも市長にぜひこういった文化の育つギャラリーだとか、コンサートボールだとかを、造ってくれとやっていたのですが、これからも自治連で公園緑地課とも接触があるので、なかなか前には進まないのですが、そういったことが進んでいくと、船橋市も良くなっていくのではないかな、と。スポーツは、ああいったものがたくさんできるのですが、こういったものを今度本当に文化活動の高いものが入ってくるように微力ながら頑張りたいなと、今つくづく思いました。
○太下会長
ありがとうございました。他に何かご意見ご質問ございますか。よろしいですか。それでは続いて、第１０ふなばしミュージックストリートについて事務局から事業説明をお願いいたします。
○事務局（文化課文化振興係員）

事務局でございます。では、令和５年度第１０回ふなばしミュージックストリートの事業説明をさせていただきます。資料としては、個別事業評価シートの他に、第１０回ふなばしミュージックストリート実施報告書、をお配りしています。

令和５年度のふなばしミュージックストリートは、千葉県誕生１５０周年記念事業に該当し、千葉県から３００万円の補助金交付を受けて実施したので、例年よりも規模が大きいものとなりました。総出演団体数１３９組、総出演者数６４８名、となりました。

企画としては５つ実施しました。１つ目が、バックストリートミュージックです。土日２日間でメインイベントを開催する１週間前の月曜日から金曜日にかけて、船橋駅周辺の飲食店で食事をしながらアーティストの弾き語りなどが楽しめるものです。２つ目が、あおぞらカラオケライブです。街なかで誰もが気軽に歌を楽しめる“カラオケ企画”です。３つ目が、学生バンドコンテストです。企画の準備・運営から出演アーティストまで学生が中心となって行なう“学生バンドコンテスト”を初開催しました。４つ目が、弾き語りコンテストです。こちらは毎年恒例のアーティスト自らが作詞･作曲した曲を演奏し歌唱する催しです。５つ目が、ライブパフォーマンスです。メインとなる屋外４会場でアーティストが演奏し歌唱します。来場者数は、土日２日間で開催した、２つ目のあおぞらカラオケライブから５つ目のライブパフォーマンスの延べ人数で、１０，４８０人でした。

それではモニターをご覧ください。１０秒程度のライブパフォーマンスの短い動画を流します。会場は、天沼弁天池公園です。船橋駅の南口に市役所がありますが、反対方面、北口にある公園です。天沼弁天池公園は普段は噴水が出る場所に椅子を並べて会場としています。

こちらも天沼弁天池公園の写真です。

舞台にいるアーティストは小学生３人、高校生１人の全員子どものバンドです。

また、小さいのですが、左端にボランティア実行委員が写っています。皆、お揃いの黄色いＴシャツを来ています。ミュージックストリートでは、毎年実行委員用にＴシャツを作り、それを着用することで、一目で関係者だとわかるようにしています。また、出演者も参加費として、出演者用のＴシャツを購入していただき、それを着用してライブパフォーマンスをしていただいています。

こちらも天沼弁天池公園の写真です。ゴスペルのチームなので、舞台いっぱいになっています。また、舞台の奥に、キッチンカーのスペースを設けています。これがキッチンカーエリアの写真です。テーブルと椅子を設けてこちらで飲食できるようになっています。キッチンカーで買ったものを、先程の天沼弁天池公園の舞台前の観客席に持ち込み、飲食をしながらライブパフォーマンスを楽しむこともできます。

こちらの会場は、ＦＡＣＥビル連絡デッキです。２０秒程の短い動画を流します。

影が動いているのがおわかりいただけますでしょうか。ＦＡＣＥビルと京成船橋駅改札の連絡デッキでライブパフォーマンスを行っている最中も人通りがあります。立ち止まって見てくれる人もいます。

こちらもＦＡＣＥビル連絡デッキの写真です。
こちらは、東武百貨店の屋上でのライブパフォーマンスの写真です。毎年、東武百貨店にご協力いただき、会場として使わせていただいています。
こちらは、船橋駅北口のおまつり広場でのライブパフォーマンスです。１分程の動画を流します。ここは船橋駅から北口にあるイトーヨーカドー等への通り道となっています。通りがかった人が足を止めて聞いてくれることもあります。
写真・動画は以上です。個別事業評価シートの裏面をご覧ください。
まず、定性評価ですが、メイン会場である天沼弁天池公園会場では、１日あたり１０台、２日間で延べ２０台キッチンカーを設置し、様々な音楽とともに様々な食も楽しめる空間を作ることで、街の賑わいに貢献したとして、３、と評価しています。
次に定量評価ですが、令和４年度の延べ来場者数３，１６９名から大幅に増加し、２日間の延べ来場者数１０，４８０名となりました。
この数字は、目標値の来場者数８，５００名を大幅に超え、目標を達成したので、５、と評価しています。
課題としては、「音楽でまちを元気に」をテーマとしたイベントでありますが、実行委員会において、より具体的な目標設定を求める声が出ています。
立ち上げ当初は、経済分野の関係者も複数参加していましたが、現在は参加がありません。
また、教育委員会の所掌事務の範囲では、経済やまちづくりなど、他分野との連携が困難な面もあります。
委員の皆様に求めたい助言は、今後の目標について、実行委員会が主体的に考えているところですが、行政としてアドバイスすべきことがあればご教示いただければと思います。第１０回船橋ミュージックストリートの事業説明は以上です。
〇太下会長
ご説明ありがとうございました。一つ質問ですけど、この課題に書かれているより具体的な目標設定というのは具体的にはどういう内容を意味しているのでしょうか？
〇事務局（文化課長）
文化課長です。第１０回ミュージックストリートは５年度ですが、６年度の１０月にイベントが終わった後の反省会で、実行委員会のメンバーから、「音楽でまちを元気に」が広い目標設定なので、より具体的な目標が欲しいという発言がありました。それを実行委員会の幹部でも色々話し合い、現時点ではまだ十分に具体化はしていません。例えば、元々墨田区の「すみジャズ」という非常に大きいイベントがありまして、当初はそれを目指していたようなところもあるのですが、やはり地域の特性が違いますので、「すみジャズ」のような大規模なものじゃなくて、もっと地域密着型を目指すのかとか、あとは知名度がまだまだ無いんじゃないかということで、今年度もう少し知名度の向上を目指そうとか、そういった意見も出ています。
〇松本副会長

松本です。毎回聞いてはいるのですが、とても全部見るっていうわけにはいかないので、一部分を見て回ったりしていますが、とにかく始まってから何年かで少しずつ、出演者のレベルも上がってきてとてもいい演奏が多いと思います。それでとにかく出演している人たちがものすごく楽しんでやっているのが見ている方も感じられて、とても楽しく聞いています。何か目標設定と言っても、やはり色々なものがあって良いんじゃないかと思います。何か限定してしまうと、参加するのがまた難しくなったりするので、色々な物があっていいと思いますね。参加している人も知っている人が何人もいるのですが、とにかく皆さん楽しかったし、船橋がこんなに音楽が盛んになっているんだっていうので、びっくりしたというようなこともいただいております。今回、バックストリートミュージックもあって、一週間前から。色々な飲食店も一緒になってやったというのはとっても素晴らしいことだし、船橋がこんなに音楽盛んだっていうのが、街全体で盛り上がったんじゃないかと思います。

〇太下会長

ありがとうございました。そういう意味では、定性評価が３というのはちょっと低過ぎるのではないでしょうか。４くらいでも良いんじゃないですかね。

〇高屋委員

高屋です。これ昔、最初の発端っていうのは、船橋市の文化ホールでやっていた文化祭からなのでしょうか？文化祭ではよく音楽の人たちとか演劇の人たちが全部集まって何かやっていたんです。４０～５０年前か、文化ホールができた当時から、文化祭があった記憶です。当時オーケストラの人たちがいらして音楽でそういうイベントもやっていたんですけど、人はそんなに見にいらしていなかったです。文化ホールと中央公民館の開催でしたから。だからそれに比べたらこの１万人って評価的にすごいと思います。で、今、何か目標にしてらっしゃるっていうのは、その目標値をさらに求めているってことですか。

〇事務局（文化課長）

文化課長です。ミュージックストリートの議事録を見ると、１回目の時は今と実行委員のメンバーとだいぶ違い、千人の音楽祭の実行委委員と結構似たようなメンバーでした。千人の音楽祭では、どうしても観覧希望者が全員会場に入れなかったこともあり、ミュージックストリートでは、吹奏楽などを主に想定しながら色々な会場で音楽聞ければみたいなところもあったんですけども、だんだんそこにストリートミュージシャンが入ってきて、雰囲気が変わっていって、２回３回とやってくうちに、どちらかというと吹奏楽というよりももっと身近な音楽、特にジャンルを拘っているわけではないのですが、ストリートミュージシャンが多く繋ぐようなイベントになっていったようです。

また、１回目の頃は市役所の商工振興課であるとか観光協会とか結構経済系の方も実行委員に入っていましたが、ただその辺もだんだん回を重ねるごとにいなくなっていって、今どちらかというと音楽を愛する市民が集まって実行委員になっています。回を重ねる中で改めて具体的な目標設定が欲しいという意見が出ましたが、ただ、私

も松本先生がおっしゃったとおり、文化課として特にこうしてくれというのはないので皆さんでやはり話し合いながらやってくってことでいいんじゃないですかねって言ったところ、実行委員の方も結構安心してあ、じゃ今まで通りでいいんですね、みたいな話にまとまったのですが、本当にそれで良かったのかなというのもあったので、ちょっと今回ご質問させていただいたというところでございます。

〇高屋委員

高屋です。千人の音楽祭は全然若すぎるっていうか、歴史が直近の話なのですが、最初はね、文化祭やってた頃は吹奏楽の方が船橋にいますから、その方達のジャズか演奏されて、それでミュージカル系やってる人達が、そこで歌ったり踊ったりしていたっていうのもありました。でもそういうものは、今、この中には無いから、若者向けに全部なっているなって感じはするのですが、それが悪いとは思ってなくて、１万人も来ているからすごいと思います。

〇松本副会長

今、高屋さんがおっしゃったこと、千人の音楽祭が始まったのは、４０年、もっと前ですかね？船橋アリーナができた時ですからね。

〇事務局（文化課長）

平成６年に始まりました。

〇松本副会長

ありがとうございます。千人の音楽祭をずっと続けられてきたのですが、学校の音楽祭みたいな形で、学校が結構中心になって、もちろん市民の色々な団体も参加するのですが、学生の音楽団体が中心になっているので、大人だけの場も欲しいというようなことで、千人の音楽祭とは別に大人中心の音楽イベントができないか、できれば１０月にやろうというようなことで、大人達の色々な吹奏楽とかオーケストラとか、色々な団体が言い出して、それで始まったんですね。ですから、クラシックだけじゃなくて、ジャズとかビートルズなどもあり、色々あったのですが、だんだんそれが今の若者達の音楽に少しずつ移行してきたというような形ですかね。

〇太下会長

歴史のご説明ありがとうございます。

〇村田委員

そうなんですね。だいぶ変わったと思います。最初のうちはコンサートとかで私達が地域に住んでいると子供達がね、船橋ってすごいじゃないですか、管弦楽部とか全国のコンクールで優勝するし。そういった場所があんまり市内に無いものですから、今度、逆に聞けなくなってきちゃって。ミュージックストリートもすごい良いことだなと思って、裾野を広げていくのには良いことなのだけど、今度そっちの方が手薄になっているのではないかなという気がしています。子供達のそういったすごい持っている能力をもっと広げてやりたいかな。すごくそれは地域のおばあちゃんあたりもね、すごくそれに力を入れていきたいなと思っています。なんとかそういったところもミックスしながら考えていただけると嬉しいかなと思います。よろしくお願いします。

○太下会長
ありがとうございました。他に何かご意見ご質問ございますでしょうか。
教育委員会では、なかなか経済やまちづくりなどの他の分野との連携が困難な面もあるというのは確かにその通りだと思います。まあ、ご案内通り全国の自治体の文化の所管は首長部局にどんどん移っていますので、船橋さんもそうさればいいんじゃないですか？たぶん、かなり少なくなってきているんじゃないですかね？教育委員会所管っていうのは。
○事務局（文化課長）
文化課長です。中核市の中でも、文化政策の所管課が教育委員会に残っているところ、６２市中、もう８市とか、もう１０市無いような状態です。また、最近議会の方からも、そういったご指摘は出てきていますので、そこは庁内でよくよく話し合って行きたいと思っています。以上です。
○松本副会長
ついでにですね、文化振興財団っていうのを、公園協会ではなくてね、文化・スポーツ公社っていうのはありましたけれども、文化振興財団っていうのも造られたらいいんじゃないかと思うんですけれども、よろしくお願いします。
○太下会長
ぜひ、それも造られるといいですね。他に何かご意見ご質問ございますでしょうか。
○澤田委員
感想になってしまうのですが、市民の方が主体的にこれだけ参加しているのはすごいなと思います。経済界の方がだんだん引いてかれたというのは、理由は分からないのですが、どちらにしても成立しているということがすごいことで、やはり「音楽のまち 船橋」だと思います。これはすごく評価に値して、経済界とも自然な形でまた協力することもあり得ると思うのですが、まず独自でこれだけできるっていうのはとても誇っていいと思います。以上です。
○太下会長
他はよろしいでしょうか？それでは続きまして。第３１回音楽のまち・ふなばし 千人の音楽祭、について、事務局から事業説明をお願いいたします。
○事務局（文化課文化振興係員）
事務局でございます。第３１回音楽のまち・ふなばし 千人の音楽祭の事業説明を始めます。資料としては、個別事業評価シートの他に、「第３１回音楽のまち・ふなばし 千人の音楽祭」実施報告、をお配りしています。
令和５年度は、千葉県誕生１５０周年記念事業に該当し、千葉県から６００万円の補助金交付を受けて実施したので、例年よりも規模が大きいものとなりました。
出演者数は１，９４７人。内訳は、小学校が１６校で４５６人、中学校が１８校で６８８人、高校が１校で１２４人、参加しました。一般出演者は５８０人、ゲスト等が９９人、です。来場者数は１，７３４人、内１，６２０人が一般申込みの方です。座席数に限りがありますので、観覧募集を往復はがきで実施し、１，９８７通の応募

がありました。その内当選したのは１，１２５通です。
モニターをご覧ください。千人の音楽祭はＤＶＤを作成していますので、抜粋動画をご覧ください。
オープニングは、令和５年度までふなばしミュージックストリート実行委員長を務めていただいた、声松　優一さんとゲストの方々が、オーケストラをバックにウイアーザワールドを歌ってくださいました。こちらは和太鼓です。千人の音楽祭では、世代やジャンルを超えた交流をすることで、音楽文化の振興を図ることを目指していますので、様々なジャンルの音楽団体が登場します。こちらは、千葉県誕生 150 周年記念企画として、市内学校で管弦・吹奏楽部に在籍していた卒業生達による「千人の音楽祭スペシャルオーケストラ２０２３」ステージの企画演奏を実施しました。こちらは、　小中学生と一般募集による合唱です。こちらは、船橋市立船橋高等学校吹奏楽部による「よさこいソーラン」です。千人の音楽祭は、毎年、グランドフィナーレで終わります。これまで出演した方・団体が一同に会し、１つの演目を披露していきます。令和５年度は、千葉県誕生１５０周年記念企画として、市内小中学校から「船橋愛」をテーマに募集した言葉を元に実行委員会で作成した新たなテーマソング「船橋讃歌」～千人の音楽祭に寄せて～を初披露しました。千人の音楽祭は、メインテーマソングがありまして、「船橋ドドンパ」です。毎年、グランドフィナーレの最後は、「船橋ドドンパ」を披露します。出演者だけでなく、観客席も巻き込んで、演奏・ダンス、を披露します。
千人の音楽祭のＤＶＤ映像は以上です。個別事業評価シートをご覧ください。
まず、定性評価ですが、多様な世代・ジャンルの出演者総勢１，９４７人での開催が出来たこと、及び、満足度の高さから、出演者・参加者共に音楽の魅力を伝えることが出来、地域住民の音楽への関心と参加意欲を高めることに貢献できたとし、５、と評価しています。
次に、定量評価は、来場者の９８％から、アンケートにて「大いに楽しめた」「楽しかった」の回答をいただくことが出来たため、５、と評価しています。
課題としては、千人の音楽祭は、一般の音楽団体と市立小・中・高校の教員を中心とした実行委員会が主体となり立ち上がりましたが、１０数年ほど前から一般団体の参画が激減し、現在、実行委員会の中心は教員となっています。
幅広い世代の文化振興を図るためには、以前のような一般団体の参画が必要であると考えています。
委員の皆様に求めたい助言は、毎年、市内の一般団体に広く実行委員会への参加を呼びかけていますが、実行委員会の負担が大きいこと等から参加が増えない状況は続いています。新規参加を増やすための方策があればアドバイスをいただければと思います。以上です。
〇太下会長
ご説明ありがとうございました。千人の音楽祭について、何かご質問ご意見ございますでしょうか。

○菅根委員
　一般団体の参加が減少してしまったことが大きいということですが、具体的にどういった負担があって、今やっている方はできて、一般の人ができない、その差は何なのでしょうか？
○事務局（文化課長）
　文化課長です。実行委員が教員の方、一般団体の方ももちろん続けていただいている方もいますが、だいたい実行委員の開催が夜７時以降になってしまいますし、９時・１０時ぐらいまでの会議を、年間ずっと続けていくような形になりますので、どうしても負担が大きいのかなというのはあります。平成６年に千人の音楽祭が始まって、当時は、船橋の音楽の力を船橋アリーナでド派手なイベントやることで、対外的に示して、それによって行政が動いて、音楽ホールを造ってくれるんじゃないか、という夢があった、ということを聞いていますが、どんなにやっても音楽ホールを造る動きがなかなか出てこなくて、２０回ぐらいからだんだん一般の音楽団体がなかなか続けるのが難しくなったと聞いています。ただ一方で、小中学校の先生方は子供達がこのイベントを本当に楽しみにしてますので、教員としては続けたいという思いがあるので、近年では主に先生方の熱意でやっていただいているというのが現状かなと思っています。
○村田委員
　すごく一般的なことなのですが、千人の音楽祭のように、最初すごく良くて、千人の音楽祭も、行ったらもう大感激なのですが、やっぱり今も言ってらっしゃったように、学校関係の方のラインだと、一般の方の人達がなんとなく遠慮気味にやっていただくのだな、みたいな雰囲気になってくることってすごくあると思います。それと、場所的に、こんなこと言ったら申し訳ないのですが、それこそ本町辺りからでも結構遠いわけですよ。そういうことがあって、アリーナが、ほら二つなってるじゃないですか。ああいうのはどうなんですかね。使用できないんですかね？管弦とか、子供達が演奏するコーナーと、もう一つアリーナも別の方で、一般的な方のをやるという、そういった展開は何ですかね。
○事務局（文化課長）
　文化課長です。アリーナ二つというのは、ららアリーナのことをおっしゃっていると思うのですが、ららアリーナになりますと、非常に会場の規模が大きくてですね、１万人収容が可能ということで、今度は１万人の音楽祭ができるかもしれないですが、会場費が非常に高くて、一日借りると大体１，０００万円ぐらいはかかるのかなというところで、前日にリハーサルも必要で、できれば三日ぐらい借りたいところなので、そこの兼ね合いがあります。実現の可能性は全く分かりませんが、やはりららアリーナで演奏したいという声も挙がってはいるので、長期的な課題になるかもしれないですけど、その辺は研究はしてみたいと思っています。
○太下会長
　では、ぜひ、１万人の音楽祭を目指していただいて。他に何かご質問ご意見ござい

ますか。
〇倉本委員
　倉本です。私、コロナ禍に入る前に一度見させていただき、今回も見させていただいたんですね。今回は特に学校の先生方の熱心さが伝わってきました。元々とても素晴らしいイベントで、楽しんで子供達もやっている、その子供達が育って、とても懐かしくイベントを語るっている場にも出会っています。ですからとても素晴らしい企画だとは思います。ただ、今おっしゃったように実行委員の成り手が無い、という現実的な問題があるわけですよね。ふなばしミュージックストリートも、実行委員の方々がどういう方々なのかよくわかりませんが、実行委員の多様性、色々な分野の方々が知恵を出し合って、一つの企画を作っていく、という場を作っていくのは大切でその場をセットするのは役所の役割ではないかと思っています。すみません、大変ことはわかりますが。でも、同じプロフラムを３１年間積み重ねて、ただ積み重ねていけばいいのか？、今後もどうにかなると思うし、みんな楽しんでいると思うし、先ほど松本さんがおっしゃったように参加者が楽しんでいるっていうのは事実なんだと思いますが、他の視点から一度イベントを見てみることが大切かと思います。そしてその役割はであると私は考えています。
〇松本委員
　松本です。私ずっと音楽に関わってきて音楽祭に参加もしたわけですけども、千人の音楽祭は、大人の吹奏楽とか、オーケストラの団体からすると、なかなかお祭りとしてはいいんですけど、演奏レベルを上げられるわけでもないので、最初の頃は良いんですけど、長年続けてくると、ちょっとかったるいな～みたいな、そういうのが、もしかしたら出てきているんじゃないかと思うんですね。だから毎回何か新しいものを考えていくと、もう少し出演する意欲も出るんじゃないかなと思うけど、だいたいもう形が決まっているのでね、曲を新しく変えても、同じようなものと感じてしまうのだと思います。大人の団体の人たちはそう捉えてしまうので、なかなか難しくなっているんじゃないかと思います。オーケストラにしろ、吹奏楽にしろ、そのアマチュアの団体の人達というのは、案外メンバーがずっと同じなんですよ。学生みたいに次から次へと新しい人にならないですよね。うちの子供も参加して千人の音楽祭は良い思い出になっているわけですけれども、大人の団体は同じ人たちが続けているわけですから、そこが難しいところなんじゃないかと思いますね。ある程度はそれも仕方がないのかもしれないですけど、千人の音楽祭のＯＢのような人たちが次から次へと新しく参加するようになれば、吹奏楽の人や、オーケストラの団体なんかも、うまくいくと思うんですけど、そこが難しいところかなと思います。
〇事務局（文化課文化課長）
　文化課長です。実行委員の集め方というところで、まずミュージックストリートの方は、毎年何人か新しく入っていただける方がいらっしゃいまして、先日も来年度に向けて新しいメンバーで顔合わせがあったのですけれども、定年退職された方などが仕事している間ずっと会社と家を行き来する生活で、気がついたら船橋のことを全然

知らなかったと。実行委員を務めたことで、船橋のことが分かっている地元の仲間ができてすごく良かったんだ、というお話をされていただく方も結構いてですね、イベントを通じて音楽だけじゃなくて、地域づくりというか、人づくり、仲間作りみたいなもできているのかな、と。なので、ミュージックストリートはそういう面でメンバーの新陳代謝がされていきそうな気もします。

千人の音楽祭に関しては、５年度は一般の大人と子供達の合同のステージは合唱だけでしたが、６年度は吹奏楽と管弦楽も行いました。子供達と一緒に練習したり演奏したりするっていうのは非常に良い経験になったという話がありますので、そういった流れの中で、もしかしたら大人の参画が今後ちょっと増えるかもしれないかなとは思います。その辺期待していきたいと思っています。

〇松本副会長

松本です。続きですけれども、結局、ミュージックストリートにしても千人の音楽祭にしても、地域ふれあいコンサートにしても、ある程度続けていくと、新たな熱心に色々やる人が出てこないとなかなか難しいんですよね。地域ふれあいコンサートなども公民館でやっているコンサートですが、もう会場によっては、みんなやってきた人が年取っちゃってもうできないよって言うと、もうそれで潰れてしまうようなところがあるわけです。そういう熱心な人たちを探して参加してもらう以外、難しいんじゃないかな、という気もします。

〇太下会長

ありがとうございました。なかなか正解は無いかもしれませんけど、ぜひ頑張っていただければと思います。他に何かご意見ご質問ございますでしょうか。よろしいですか？

それでは続きまして。令和５年度郷土資料館、主催事業展示事業教育普及事業について事務局から事業説明をお願いいたします。

〇事務局（郷土資料館長）

第２次船橋市文化振興基本方針・個別事業評価シートの令和５年度郷土資料館主催事業「展示事業・教育普及事業」についてご説明いたします。

第２次基本方針における同事業の位置付けは、「Ⅳ活かし伝える」施策①各地域の文化資源を活用する取組の充実。施策②地域の有形・無形の文化財を大切に守り、次世代へ継承する仕組みの構築、とされております。

郷土資料館においては、これら基本方針に基づき様々な事業を展開しております。「ふるさと船橋」への思いを育む生涯学習施設として、船橋市に関する考古・歴史・民俗等の資料について調査・研究・保存・活用を図り、市民の学習・文化活動の推進及び支援に努めるための展示事業及び教育普及事業を行っております。

まず、令和５年度の展示事業についてですが、常設展示、屋外展示のほか、「私たちのまなびや」「くらしの道具展」「１万年前のタイムカプセルー国史跡取掛西貝塚ー」「早慶戦の大乱闘 リンゴ事件から９０年」の四つの企画展を実施いたしました。

出張展示として、船橋アリーナ内の吉澤野球博物館資料展示室においての寄贈野球資料の展示や西図書館との共催事業として「昔のくらし展」を開催いたしました。

また、ミニ展示として船橋ゆかりの人形師原米洲の「雛人形」などの時節にあった展示も行っております。

次に、教育普及事業についてですが、古文書講座（初級・中級・ゼミ編）をトータル３５回開催し延べ３１６人が受講いたしました。また、郷土資料館以外の松が丘・北部公民館でも共催事業として開催し、計５回延べ６１人の参加を頂いております。

講座・講演会として、地域史講座「団地の時代－高根台で学ぶ昭和史－」・文化講演会「国史跡 取掛西貝塚ってどんな遺跡？」・スポーツ講演会「早慶『舌』戦 リンゴ事件から９０年～その真実は～」を公民館等で開催しました。また、古文書の整理方法を学ぶ史料整理ボランティア養成講座を実施しました。

企画展の理解を深めていただくために関連したワークショップは、展示内容に協力いただいた他部署や企業のサポートを受け魅力ある内容といたしました。

何らかの事情により郷土資料館に訪れることが困難な人のために、企画展「私たちのまなびや」の展示解説動画を作成し、YouTube 動画「生涯学習チャンネル」で公開しております。

アウトリーチとして小学校・公民館等の施設に赴き出前事業等も計２２回延べ１，２８５人の参加を頂いております。

このほか博学連携事業として、教育課程に基づく博物館見学、小中学校＝１６件・１，２１５人、高齢者福祉施設＝４件・６９人、公共機関＝５件・１３１人、ＳＬ団体見学＝１７件・１，１５１人の対応や、学校授業への考古・民俗資料や写真パネル等の貸出しを行い、直接本物に触れていただく機会を創出しております。令和２年度以降の各年度の推移については資料記載のとおりでございます。

令和５年度の定量目標値に対する事業参加者数は目標値を大きく上回りましたが、入館者数については達成することができませんでした。一昨年度真夏の猛暑・酷暑の影響と新型コロナウィルの５類感染症の移行に伴い、自由な外出が解禁されたことにより、生活スタイルが変化したことによる影響があったものだと考えております。

今年度につきましても「ふるさと船橋」への思いを育む生涯学習施設として、市民の学習・文化活動の推進のために様々な工夫を凝らし、展示事業及び教育普及事業を企画・展開しているところでございます。

本日画像をお持ち致しましたので、こちらはそれぞれの企画展示事業教育普及事業の一部分の切り抜きとなっております。まずこちらの写真が暮らしの道具店１月２０日から３月３１日の会期で行われた展示風景でございます。続いて、こちらは船橋アリーナにおいて開催した、早慶戦の大乱闘!９０年展。夏休み期間中の７月２２日から８月２１日まで実施したポスターとなります。続いて、暮らしの道具展の

関連イベントとして行いました、火鉢いちおし選手権。ここに並べられた火鉢のお気に入りを、来館された方に投票をしていただいたものです。続いて、津田沼駅パルコの思い出、と題しまして、こちらはパルコ閉店に伴って千葉工業大学の学生さん達による展示協力をいただいたパルコ展の１階ロビーの様子ございます。５月２日から６月１１日に開催いたしました。続きまして、こちらは「私たちのまなびや」で行ったワークショップです。講師は株式会社ｍｙふなばし、Ｍｙ Ｆｕｎａレポーターの女性でございます。内容は、「大人も子どもも楽しめるふなばしクイズ大会」を８月１８日に開催いたしました。続いて、吉澤野球博物館資料展示室での企画展の当館学芸員による展示解説風景でございます。８月１１日に行いました。続いて、こちらは「私たちのまなびや」のポスターになります。次のものが、実際のイベントの中で、教育委員会の保健体育課の栄養士さん等による協力で画像モニターを使っての展示解説及びクイズ、を当館おいでの方々に直接体験していただきました、そして最後ですが、こちらは文化講演会取掛西貝塚についての講演でございます。こちらは、会場が薬円台公民館の講堂で行いまして、１１月２６日開催の記録でございます。

郷土資料館からの説明は以上となります。

〇太下会長

ご説明ありがとうございました。ただいまの郷土資料館さんのご説明事業について何かご意見ご質問ございますでしょうか。

〇菅根委員

私、昨年まで千葉県の博物館協会長をやっておりまして、一番問題なのは、博物館法が改正されたことで、新しい登録博物館が、こちらも登録博物館ですか？、目標があったと思うんですけども、そこで取り上げられましたのは、美術館ＤＸ、デジタルアーカイブと、文化観光でございますね。ですから、評価２として、入会者が減ったと。この博物館がどちらに向いてるかというと、市民の皆様の博物館だと。教育というものと関連して教育施設だと。それに対して、文化庁のような文化施設だというような齟齬がございます。ですから、あくまでも教育施設という方針はこれも持っていただきたいと。色々文化庁の方から、観光に力を入れろとか、入館者数をと、こういった評価にしろ、ということで、評価に吟味することはないんじゃないかなと思います。これだけ充実した授業もやっていますし、いいんじゃないかなと思います。

ただ、これから博物館としてどういう風にしていきたいかということで、もしその入会者数を増やすというのであれば、所蔵資料だけでは限界がありますので、他からあるいは名品を借りてくるとか。名品という言い方が正しいかわかりませんが、違う自治体の資料ですね。それで違ったスケールの大きな展示をしていけばいいんじゃないかなと。そういう考えがあります。よろしくお願いします。

〇事務局（郷土資料館長）

ありがとうございました。たしかに委員がおっしゃるように、博物館のこれからのあり方については色々と市町村によって考え方が違うと思います。今現在、先ほど文

化課長からも博物館文化課などが教育委員会にあるかどうかというのも、今おそらく市の方でも色々考えがあると伺っております。ただ、博物館法が改正され、やはり法令順守の立場である郷土資料館の館長としては、やはり教育施設としての学校教育のお手伝い及び市民の方々、どんな年代の方々にも生涯学習のお手伝いをすること。ただ、博物館の役割が街起こしの一つとしても捉えられていることでございますので、そちらも十分踏まえた上で、賑やかしだけの博物館ではなく、やはり来る人がまた行って、面白かった、もっと勉強を深めたいと思えるような博物館にするために、前年度よりは、文化課と協力し合って、他の施設や、民間の方々からも色んなお知恵を拝借して、博物館事業をより魅力あるものにするために、今後も努力して参ります。以上です。

〇太下会長

他に何かご意見、ご質問ございますか？よろしいですか？

それでは続きまして、令和５年度出張美術展どこかで見た不思議な風景について、事務局から事業説明をお願いいたします。

〇事務局（文化課主任学芸員）

それでは、令和５年度出張美術展「どこかで見た不思議な風景」、の事業説明を始めます。こちらは第２次船橋市文化振興基本方針重点プログラムの１つ「アートでつながるまち ふなばし」の項目の１つとして、事業評価をしていただければと思います。

資料としては、個別事業評価シートの他に、令和５年度出張美術展実施報告、をお配りしています。会期は、令和５年５月２７日～６月１１日に開催しました。会場は船橋市郷土資料館です。来場者数は１，３３４名でした。

モニターをご覧ください。郷土資料館での展示風景写真です。「出張美術展」は市内の公民館や学校、文化施設を会場に市所蔵の美術作品を紹介する展覧会です。

先ほどの所蔵作品展は市民ギャラリーで年に１回開催しているのですが、「出張美術展」はそれとはまた別に、市内の様々な施設を使って所蔵作品を展示する展覧会です。この時は、郷土資料館の１室をお借りして展示したものです。

所蔵作品についてですが、先ほどの「フナバシストーリー」の他に、洋画家の椿貞雄を始めとする船橋ゆかりの作家の作品を約６５０点ほど所蔵しています。それらを活用しながら展覧会などの事業を行っています。

本展覧会では、市の所蔵作品に、ご遺族や市内の方からお借りした作品を加え、２３点の美術作品を展示しました。「どこかで見た不思議な風景」と副題をつけ、“風景”という大きなテーマで展示を構成し、様々な作家やジャンルの美術作品を伝える展覧会としました。

また、郷土資料館との共催事業として、美術作品に関連する資料館所蔵の写真等資料を併せて展示することで、作品へ多角的にアプローチできるような試みとなりました。

これは、展覧会の学校連携事業として、施設の近隣にある薬円台南小学校と薬円台

小学校の５年生を対象に見学会を実施した時の写真です。
児童たちは事前に、学内にて「ふなばしアートカード」を使ったグループワークを行い、その一週間後、展覧会場に来訪しました。
さらに、近隣の二宮中学校の美術部の子達が見学に来てくれました。いつも私たち学芸員からは小学校へのアプローチは行っているのですが、なかなか中学校へアプローチができてないところがありました。この時は中学校の美術の先生が見学会の話を持ち掛けてくれて、実現したものです。小学生とは中学生の見方が異なりより深く作品を見ていたように感じて、小学生だけではなくて色んな成長段階の人達に作品を見てもらわないといけないな、と実感した見学会となりました。
こちらは、担当学芸員による対話型ギャラリーツアーの写真です。大人向けの対話型鑑賞を実施しました。
このたびの出張美術展は郷土資料館での初めての開催でしたが、展覧会を行う「場」について考える機会となりました。
同じ時期に開催していたミニ展示企画「津田沼 PARCO の思い出」を目指してきた来場者や、資料展示に関するクイズラリーをしに来た子供たちなどにも、企画展示室で開催していた出張美術展に足を運んでもらい、新しい層に「船橋の美術」を伝えることができました。
また、施設が公園に隣接していることもあり、散歩等のついでに資料館に訪れる人たちの姿が多く見受けられたことが印象的でした。
写真は以上です。個別事業評価シートをご覧ください。
まず、定性評価は、薬円台公園や郷土資料館の利用者がついでに足を運んでくれ、新しい層に「船橋の美術」を伝えることができたとし、４、と評価しています。
そして、定量評価は、目標としていたアンケート回収枚数をやや上回る実績が得られたため、４、と評価しています。
課題は、先ほどの所蔵作品展の話の続きなのですが、やはり、展示する場がないという辛さが一番でして、このように色んな、郷土資料館や市民ギャラリーなどの場を「借りている」という気持ちで活動しております。美術館が欲しいというところではあるのですが、この時代、なかなか「館」を建てるのも難しいということも感じています。委員の皆様にお聞きする質問かわからないのですが、美術館を作る機運を高めるにはどうしたらいいのかなと。お答えするのが難しい質問かとは思いますが、アドバイスいただけますでしょうか。よろしくお願いします。
〇太下会長
ご説明ありがとうございました。ただいまの、どこかで見た不思議な風景について、何かご質問ご意見ございますでしょうか。
〇日野原委員
日野原です。この企画についても先ほど自分が発言したような内容に重複するんですけど、子供達に向かって発信して、それがまた広がっていくというとても価値のある事業だなと思っているところです。この生の作品は、触れる機会がなかなか、やは

り美術館がないので少ないと。アートカードで船橋の所蔵作品について学校に渡して、対話型鑑賞で広げていくってことは、意味があるんですけども、生の物に触れるっていうのは、また別の意味で必要なことかなと思いますので、それが見つからないことによって、本当に工夫してですね、企画を立てていただいて、また市民ギャラリーだけでない、色んな場に働きかけて広げていくっていうことを、今やっていただいているんです。ただもう限界もあるんじゃないかなと思うので、これから先のことを考えると、結構市民にアートを広げていくことを考えると、もう少し具体的な部分を広げていくことを考えていく必要があるんじゃないかと強く思っています。また、色々ご意見をいただいて、よりアートについて市民に広げていく手立てを考えていけたらありがたいなと思いますので、よろしくお願いします。

〇村田委員

村田でございます。私もすごくそう思うんですね。本当に本物を子供の時から見ているということはものすごく心の財産になってくるし、それこそ未来に対しての文化的芸術のことについてもしっかりと発展していく材料になってくると思うんです。本当に船橋市は、さっきからこんなこと言ってできっとどこかで怒られそうなんですけど、なんでこんなにできないんだと思うんですけど、私たち地域の住民の方も、例えば、小学校でうちの小学校にこういった有名な画家の絵画があったんだよって言って、文化課さんが持ってきていただいて、子供に見せたらすごい子供が感動して、それに付随した父兄が見ていて、これすごいねっていうなことの声があるんですね。だからどこかで私達も地域の自治町会だとかそういったところにいっぱいアピールして、なんとか…。今の時代ですもんね、お金がないばっかり言っていてね、いつまで経ってもお金がないで、本当に残念なことだと思うので、大いにみんなであそこ行ってもの作りたいねっていう声を上げていかなきゃいけないんじゃないかなって思っていて。ぜひ微力でも私も頑張って言うだけは言っているんですけど、もうちょっと頑張りたいなと思います。

〇太下会長

ありがとうございました。市民の方の声は大切だと思います。他に何かご質問ご意見ございますか。

〇菅根委員

私は浦安の博物館のリニューアルと、今、野田の博物館の建設をやっております。それをやっているんですけど、必ず会議に出てくる方がいらっしゃいます。誰かというと市長なんですよ。市長の考え方一つで変わってくるので、ぽんとお金がつくわけですね。ですから、そういったことでこれ庁舎の内部の方で、そういったことをトップの方は分かっているはずなんです。それが一番早いやり方なんですね。もう一つは下支えと言って、例えば友の会とか何とかの会とか、そういった会と、市長とかそういった間の対話の中によってそういった機運が出てくると思うんですよね。ですから下支えされている市民の方の声とトップの方の声、考え方が一致した時に前進があるんじゃないかと私は思います。以上です。

○高屋委員
　もう本当に随分前から市長にはお話したりしているんですけど、1,200 人～2,000 人くらいのホールがまずできないっていうことと、場所があるようでないっていうか、市場の跡地とかあの辺だったら船橋から歩いて行けるから、ああいう所に総合文化センターじゃないけど、ああいうのを建てたらどうですかっていうようなお話もしてるんですが、なかなか美術館もそうですけど、やっぱりこれだけ大きい船橋市なんで、皆さんそう思ってらっしゃると思うんですけど、なんとか実現したいです。何やったら出来るんですかね。本当にみんなで協力して色々やっていけたらと思うんですけど、よろしくお願いします。
○太下会長
　ありがとうございます。ちょっと地道ですけど、市民向けとかのシンポジウムとか、そういうこう展覧会事業とかアウトリーチとはまた別の手も必要かもしれないですね。あと、やはりすぐに美術館建設とかに繋がるものじゃないですけど、文化課さんとしての人員増と予算増を切実に要求することが必要ではないかなと思います。当面はこのソフト事業中心に動いていくしかないので、人員がもう限界じゃないかなと思いますので、結構人員増は大事だと思います。
○事務局（文化課文化課長）
　文化課長です。美術館建設の動きが今まで全くなかったわけではなくて、実際に具体的に動いたことが二度あったんですが、ただ、色々な事情からそこが見送られています。令和３年度の市の中の政策会議で、見送られたけど長期的な課題にするんだということで一応整理がされています。所管課としては課題ということですので、これはまたチャンスがないか伺っていくというか、決して諦めているわけでありませんので、色々情報収集しながら考えていきたいと思います。また、太下先生から予算や人員の話もありますけど、頑張っていきたいと思います。ありがとうございます。
○太下会長
　敵も手ごわいでしょうけど、頑張ってください。他に何かご意見ご質問ございますでしょうか。よろしいですか？そうしましたら、事業評価は以上です。
　続きまして、令和７年度事業評価対象事業について事務局からご説明をお願いします。
○事務局（文化課文化振興係員）
　事務局でございます。令和７年度事業評価対象事業についてご説明いたします。初めの方にご覧いただきました、資料１－１にお戻りください。その２ページ目にある表をご覧ください。
　事業評価は、評価実施年度の前年度の事業を対象としますので、令和７年度事業評価対象事業は、令和６年度に実施した事業、になります。
　事務局で検討した結果、黄色の部分、「気づき始まる」は「地域ふれあいコンサート」、「学び楽しむ」は「まちかど音楽ステージ」、「育みつながる」は「歴史・文化クイズラリー」、「活かし伝える」は「文化財関連事業」または「郷土資料館主催

事業」、「重点プログラム」は「アーティスト・イン・スクール」をご提案いたします。
委員の皆様には、この５事業で良いかどうか、お伺いしたいと思います。以上です。
〇太下会長
ご説明ありがとうございました。最初にね、この評価のやり方自体の変更についてはご了承いただいたわけで、このように５つに絞ると。別に５って確定したわけでもないですよね？５ぐらいっていうイメージですかね？
〇事務局（文化課文化振興係員）
一応、５のつもりではありました。４つの基本目標で１事業ずつと、重点プログラムの１事業で、５のつもりではありましたが、ご意見によっては柔軟に対応いたします。
〇太下会長
評価の年度としては来年度ですけど、対象年度としては令和６年度の事業をこの５つで良いかどうかと、こういう諮問ですけれども、いかがでしょうか？特によろしいですか？
私の方から一点だけ。このように年度ごとに変えていくことで、まあ先ほど我々がやったように結構深掘りした議論ができて、すごくいい変更だったなと思うんですけど、一方で色々出た意見、こうしたら良いとかもあったと思うんですけど、それがどうなったのかというフォローアップも是非お願いしたいなと思います。それは何かまとめてご報告いただくだけでもいいと思うんですけど、それが決してどこかに消えてしまわないと言うことだけ担保していただければと思います。
では５事業を対象にやるということで進めたいと思います。
それでは、続きまして事業実施報告について事務局からご説明お願いいたします。
〇事務局（文化課主任学芸員）
お手元に、令和６年度アレも、コレも、船橋市所蔵作品展－ふなばしアートカードになりました－実施報告、をお配りしました。
約６５０点ある市所蔵作品の中から「ふなばしアートカード」に掲載した４４点を展示しました。
令和６年１２月４日から１５日の１２日間の会期中の来場者は１，１７９人で、１日平均９８人の方にご来場いただきました。
この度の展覧会で大きな比重を占めたイベントが、小学５年生対象の見学会です。（公財）船橋市公園協会が実施している「対話型鑑賞教室」でアートカードの授業を行った市民ギャラリー近隣の５校の児童が来場し、各クラス３グループに分かれ、２つの作品を前に対話型鑑賞を行いました。子供たちは、アートカードと実物の作品の違いに驚いたようです。
また、関連イベントの「美術フォーラム」では、子供に限らず、様々な世代の人を対象にアートカードのアクティビティと、作品を前にした対話型鑑賞を行いました。ここでは、アートカードのコミュニケーションツールとしての大きな可能性を感じま

した。アートカードの授業を受けたある小学校５年生が、家に帰って面白かったと親に話をして、それで親と一緒にイベントに来てくれたことがありました。少しずつではあるんですけれども、家族とか口コミとか、そういったところから広がっていくことがあるんだなと感じ、少しずつでも広がっていくといいなと感じた展覧会でした。

〇事務局（文化課文化振興係員）

事業報告は以上でございます。

〇太下会長

ありがとうございました。今の事業報告について何か皆さんからご意見ご質問等あればお願いいたします。特によろしいでしょうか？

そうしましたら、今後のスケジュールについて事務局からご説明をお願いいたします。

〇事務局（文化課文化振興係員）

事務局でございます。今後のスケジュールについてご説明します。

まず、協議会についてです。令和７年３月３１日で、委員の皆様の任期が満了となります。令和７年４月１日以降の委嘱については、後日、ご連絡させていただきます。

次に、第３次方針の策定委員会についてです。策定委員会の組織は、協議会と市民委員で構成されます。そのため、協議会委員は策定委員も兼ねることになります。策定委員の委嘱についても、後日、ご連絡させていただきます。

また、市民委員は１月に募集し、選考の結果、２名の方にご参加いただく予定です。

最後に、令和７年度から、第３次方針の策定が始まります。原則、協議会と策定委員会は続けて開催する予定です。６月頃に、令和７年度第１回協議会、及び、策定委員会の開催を予定しています。

第１回協議会では、本日決定した５つの事業について事業評価を実施予定です。

策定委員会では、夏に実施予定の市民アンケート設問項目について、協議予定です。

開催日程の調整について、改めて皆様にご連絡いたします。今後のスケジュールについては以上です。

〇太下会長

ご説明ありがとうございました。今今後のスケジュールについて事務局からご説明いただきましたけれども何か確認とかご質問とかございますか？よろしいでしょうか？無いようでしたら、これで令和６年度第２回船橋文化振興推進協議会を終了いたします。皆様お疲れ様でした。